

写真の書「華」は横田早紀江さんが前橋から離れるときに頂いたものです。

豪快な書が、横田早紀江さんの奥深い才能を語ります。

「めぐみさん帰国 今度こそ」

横田夫妻と親交深い大野さん



前橋を去る際、早紀江さんが大野さん夫妻に贈った書。「華」とあります。早紀江さんは書道も茶道もたしなむ芸術家です」＝前橋市内

日本と北朝鮮が再調査で合意した拉致被害者の一人、横田めぐみさんの両親の横田滋さん(81)、早紀江さん(78)夫妻は1988年から3年余り、前橋市内で暮らした。夫妻と親交が深く、拉致被害者家族を支援する市民団体「救う会・群馬」代表を務める大野トシ江さん(81)と夫で事務局長の敏雄さん(78)は、「今度こそめぐみさんの帰国を」と切望している。

拉致再調査合意で期待

横田夫妻は、日本銀行に勤めていた滋さんの転勤で前橋で暮らした。トシ江さんが横田夫妻と出会ったのは市内の教会だ。新潟市内で中学1年だっためぐみさんの行方がわからなくなったのは1977年。横田夫妻は悩み、苦しんでいた。

その横田夫妻に、悩みを分かち合える相手として牧師が紹介したのが、大野さんだった。大野夫妻は、長女を16歳

で亡くしていた。「私たちは同じように悲しんだ。共通点があることで深く理解し合いました」とトシ江さん。横田夫妻が転勤で前橋を去った後も、ずっと交流を続けてきた。

2002年9月、小泉純一郎首相(当時)が北朝鮮を訪問し、翌10月に拉致被害者5人が帰国した。しかし、そこにめぐみさんの姿はなかった。「早紀江さんに新たな苦しみが始まって

しまった」。トシ江さんは、いてもたってもいられなくなった。

横田夫妻と親交のあった地元の有志とともに、02年

拉致疑い不明者 県関係は4人

北朝鮮による今回の再調査では、拉致の可能性が ある特定失踪者も調査対象とすることが合意された。県警は、県内出身や県内で行方不明になった4人について「北朝鮮による拉致の可能性を排除できない」としている。このうち家族の同意を得た3人の氏名や顔写真、特徴、行方不明時の状況などを公開し、情報提供を呼びかけている。県警が公開している3人

12月、救う会の前身の「群馬ボランティアの会」を立ち上げた。翌月に取り組んだ署名運動には横田夫妻も駆けつけ、1日で約2500人分の署名が集まった。「私たちは支援活動を早く終えたい。めぐみさんの一日も早い帰国を切に望みます」。トシ江さんは声を震わせた。「早紀江さんも滋さんも私たちが年をとった。もう時間がない。皆、これ以上待てないんです」(馬場由美子)

は、前橋市出身の井上克美さん(当時21)＝1971年に埼玉県川口市で友人と別れた後不明に▽旧群馬町(現高崎市)の加藤八重子さん(同38)＝78年に自宅から不明に▽旧松井田町(現安中市)の横田道人さん(同23)＝70年にバス停で目撃された後不明に。詳細を公開していない1人は、行方不明当時26歳だった県内の男性だという。県警は、いずれも自ら家出する動機がないなど、不明時の状況から、北朝鮮に拉致された可能性も含めて調べている。